

# いわゆる対人恐怖症者における「悩み」 の構造に関する研究<sup>†</sup>

小 川 捷 之\*

## A Factor Analytical Study on Self-Awareness in So Called Anthropophobics

Katsuyuki OGAWA

### SUMMARY

In Japan a neurosis called anthropophobia is common, and is thought to spring from Japanese culture (especially from the Japanese mode of interpersonal relationships). Symptoms of this neurosis are of a wide variety, such as fear of blushing, of exchanging glances, of being regarded as disagreeable, and of being exposed to the public eye.

But in spite of these symptomatic differences, there seems to be a common self-consciousness among anthropophobics. In a therapeutic situation, they always complain about feelings of inadequacy.

The purpose of this study was to investigate these characteristics of self-awareness from the psychological point of view.

1. The worries that are thought to be had by these neurotics were collected and arranged into 445 items. 100 college students and 50 anthropophobics were asked to make a self-evaluation on these 445 items, each accompanied by a 7 degree rating scale. Statistically significant differences were found in 341 of the 445 items ( $p < .01$ ). According to this fact, it can be considered that anthropophobics are inclined to regard themselves as being "ill". To them, inferiority in one aspect results in considering themselves as being inferior to others in all possible ways. In other words, anthropophobics have a strong negative self-awareness.

2. Furthermore, after statistical consideration, 117 items were selected from the 341 items, and were used in the self-evaluation of 120 anthropophobics. As a result of the factor analysis concerning these 117 items, 8 factors were extracted.

Factor I.      Worry of the inability to blend into the group.

Factor II.     Personal dissatisfaction with oneself, and with one's mental function.

Factor III.    Awareness of others, resulting from worry of being regarded as disagreeable.

Factor IV.     Worry about the inability to feel "at home" in the presence of

<sup>†</sup> 本研究は昭和 47 年度文部省科学研究費 (一般研究D, 課題番号 761048) による研究の一部である。

この研究の一部は日本心理学会第 35 回大会に於て, 口頭にて発表された (小川 1971)

\* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

- others.
- Factor V. Self-consciousness in the presence of others.
- Factor VI. Constant sense of feeling "low" and not "right".
- Factor VII. Worry of being overwhelmed by a crowd of people.
- Factor VIII. Worry of being regarded as an odd person. (In this factor, there were only a few items showing high factor loadings.)

対人恐怖症と呼ばれる神経症は欧米に比べて日本では非常にポピュラーな神経症であるといわれている。このことは対人恐怖症を手がけてきている多くの研究者達、特に精神病理を専攻する精神科医の多くが一致して認めているところである。近藤(喬) (1960), 加藤 (1964), 近藤(章) (1964), 浦上 (1956)

しかしながら、これらの事実を裏付けるための十分な統計的資料は未だ報告されておらず、あくまで憶測の域を出ていない。その理由は、これらの神経症に関する比較文化的研究がわれわれ日本人にとって、言語上の障壁などから困難なことにもよるが、一つには、これらの心性を比較するための共通の心理学的な尺度が未だ開発されていないことにもよると考えられる。しかし、これらのこと以上に、この種の研究の少ない理由として考えられることは、欧米の学者がわれわれのいうところの対人恐怖なるものにあまり関心を持たないことによると思われるのである。これは、欧米ではわれわれが臨床の場でいつも出会っているような神経症水準の対人恐怖症が少ないことや、後に述べるように、欧米の文化的な土壌には対人恐怖症を生み出す要素が少ないからであるともいわれている。

西園 (1970) によると、1960 年までの精神分析学に関する文献をすべて網羅した *The Index of Psychoanalytic Writings* には対人恐怖に関する報告は 21 篇あり、そのうち、対人恐怖と題したものは僅かに日本人のものが一篇あるに過ぎず、「要するに、全世界の古今の文献のなかで、21 篇中 6 篇はわが国からの報告であり」、「他の種の神経症についてのわが国の学者の報告の比率を考えあわせてみると、対人恐怖がかなり文化的に関連をもって偏在していることを示すものであろう」と述べられている。以上のことから、対人恐怖症の研究がわが国の学者の手によってもっぱらにおこなわれていることがわかる。

わが国にあって、対人恐怖症に最も早く取り組んだのは、森田正馬であるが、彼は対人恐怖症を彼の創始した「神経質 Nervosität」の一つの類型としてとらえている。森田の高弟である高良 (1955) の報告によると、彼のところを訪れた神経症者 1,679 名のうち、実に 619 名、(36.8%) の者が対人恐怖を主訴としているということである。第 1 表は同じく高良の主宰している高良興生院における入院者の病型の分類 (大原 1970) であるが、ここでは対人恐怖の者が男女合わせると、昭和 33 年、43 年ともに、ほぼ、45.5%前後で圧倒的に多いことがわかる。

そもそも、対人恐怖症とは、森田によると、彼のいう神経質の概念 (森田神経質) のうちの強迫観念症 (恐怖症) と考えられるもので、彼の記述によると、「強迫観念としては、みづから人前を気にすることを恐怖するもので、羞恥恐怖と名づけた方が適切である。赤面を人に見られることを苦にするのはその一種であって、人前で、顔のかたちや態度をと

第1表 高良興生院における病型の分類

年 度 性 別		昭 和 33 年		昭 和 43 年	
		男 子	女 子	男 子	女 子
神経質の型					
普通神経質		57 (28.2)	16 (22.5)	22 (21.0)	16 (25.8)
強観 迫念	対人恐怖	102 (50.5)	21 (29.6)	45 (42.9)	31 (50.0)
	その他	15 (7.4)	11 (15.5)	17 (16.2)	6 (9.7)
発作性神経症		24 (11.9)	13 (18.3)	19 (18.1)	6 (9.7)
その他		4 (2.0)	10 (14.1)	2 (1.9)	3 (4.8)
計		202 (100.0)	71 (100.0)	105 (100.0)	62 (100.0)

(大原による：未発表)

り乱すのを苦にするものや、人と対応するとき、わきの下から汗が出て、言葉がどもったりするのを恐れるものがある。そのほか、人の目をまともに見ることができないのをふがいなく思うとか（私は仮りに正視恐怖と名づけてある）、自分の返事の仕方を気にするため、人に呼びかけられることを恐れるとか、あるいは人と面接するとき、口内に虫のはいやうに不快感を苦にするとか、あるいは人前や電車の中で放屁したような感じがして、きまりが悪く、たってもすわってもいられないというようなものや、羞恥のためにふるえる恐怖や、群集恐怖など数え切れないほどである（1960）。つまり、森田によると、対人恐怖とは、「恥づかしがる事をもって、自からふがいないことと考え」、人前で恥づかしがることを苦悩する、いはば、「羞恥恐怖」というべきものとして扱われているのである。

しかしながら、この対人恐怖症なる概念は、非常に曖昧なものであり、この病態のとらえ方そのものが、すでに日本的であるともいわれている（近藤(喬) 1960）。この病態に相当する語は欧米では、*Anthropophobia* であるが、この語は三好(1970)によると、欧米ではすでに死語に近いとのことである。それでもなお、この語を日本語に翻訳するとしたら（新福 1970）、「ひと恐怖」となり、われわれ日本人の考えている対人恐怖とはかなりニュアンスが異なっていると考えられている。ここで、ひと「恐怖」として、つまり「……恐怖」として本症をとらえてみると、不潔恐怖症とか高所恐怖症とは同列に扱えない要素が著しく存在し、恐怖の種類も、赤面、視線(正視)、表情、吃音等極めて多岐にわたっている。近藤(喬)はこれらの状況から、わが国でいう対人恐怖症とは、厳密な意味で恐怖症(*phobia*)といわれるかどうか疑わしいものであって、「対人恐怖症候群」として多くの症状を総括すべきであると述べている。

新福(1970)は、対人恐怖をテーマとした学会誌の序文で、対人恐怖症が、単なる「ひと」恐怖でないどころか、「おのれ」恐怖であり、それもただのおのれ恐怖でなく、「ひとに対するおのれ」恐怖であると述べ、対人恐怖症が対人恐怖症であるゆえは、「おのれ」

と「ひと」が交錯し、混交、未分化であるところにあるとして、人間関係的な側面からの本症の究明を示唆している。もし、本症が新福の説くように、自一他ないしは「おのれ」、「ひと」の未分化な人間関係の中から発現するとすれば、これは、土居 (1958, 1960, 1971) の説く「甘え」の世界であり、対人恐怖がまさしく日本的な人間関係をその発症の土壌としていることになるのである。

このように、対人恐怖と呼ばれる病態は、「……恐怖」としてとらえられる立場から、「対人……」としてとらえられる立場を許容するまでに、さまざまな要素を内包しているのである。高橋 (1966) は、本症を対人場面という「人間関係」における病態としてとらえ、微視社会学的な見地からユニークな分析を試みている。そこでは、「私」―「他人」、「私」―「われわれ」という人間関係の体験の枠組から本症が考察され、対人恐怖の基本的障害がこの体験の関係枠の欠如態として認識されている。

以上述べてきたことからわかるとおり、本症が極めて日本人的な人間関係のもつ特質を反映した対人関係の障害であり、これらの症者のうちに、われわれ日本人がともすれば陥りやすい対人関係の様式を認めることができる。対人恐怖症の研究は一面では日本人に固有な対人関係の様式を明らかにすることでもあり、また、これらの日本人的な心性の成立する人間関係的な基盤を明確にすることでもある。今回、われわれは、対人恐怖症者の意識的な側面に着目し、彼等が、どのような対人場面で困難を感じるのか、また困難を「感ずると思っている」のか、検討することにした。

本症は、森田のいうように、極めて意識性に富み、自己内省的で、対人場面における自己の一挙手一投足を極端なまでに意識し、それにこだわり、そこから由来する不安について悩む。彼等は、対人場面での不安をあまりもたない一般成人に比較して、比べものにならないほど詳細に自己および自己の行動を分化してとらえているのである。また、対人恐怖症には、前述したとおり、赤面恐怖から視線恐怖に到るまで、その訴える症状は千差万別で、さまざまなものがあるが、面接をしてみると、これらの異なった症状の者にもなれば共通した一定の対人場面における不安や悩みが存在するように思われた。われわれは、これらの症状の奥にある自己や自己の行動傾向についての不満や訴えに、対人恐怖症者に特有の対人意識や自己意識が見い出されると考えたのである。そこで、まず、対人恐怖症者が強くもつ悩みを収集し、これを整理し、数量的に分析することによって、対人場面で彼等がもつ悩みの構造を明確にしようとした。

## I 対人恐怖症者のもつ「悩み」の収集と分析

対人恐怖に悩む者の意識的側面を明確にするためには彼等がどのような悩みや不満を自分自身や対人場面について抱いているか明らかにすることがまず必要と思われた。そこで、第1段階として、可能を限り、「悩み」を収集することにした。悩みの収集に際しては、対人恐怖症の者に限らず、あらゆる者がもつ悩みを網羅するように心がけた。

具体的には、以下のような手続きでおこなった。

1. 大学生および対人恐怖に悩む者に対し、次のような質問をし、自由に記述させ、悩

みを収集しようとした。

- a. 自分に神経症的な症状があれば書いてください。b. 症状以外に困っていることや悩んでいることがあれば、できるだけ沢山書いてください。c. 自分の性格についてできるだけたくさん書いてください。d. 次にあげる人々から、自分がどのように見られていると思いますか、その場合、困っていることや悩んでいることがあれば書いてください。① 行きづりの人、② 学校の人、③ 目上の人、④ 先生、⑤ 友達、親友、⑥ 異性、⑦ 両親、⑧ 自分。e. 次の言葉に続けて、頭に浮かぶことを書いてください。① 自分の能力、② 自分の健康、③ 自分の容姿、④ 自分の仕事、⑤ 自分の不安

大学生は、18～20 才の一般教養の心理学の講義を受講している者 70 名に講義の際に集団で記述させた。対人恐怖症者は、後に述べるが、精神科の外来を訪れた者ではなく、民間の矯正施設 S 院に対人恐怖を訴えて通院（夜間）したり入院している者で、調査の対象にしたのは 100 名で、集団で記述させた。

## 2. 以上のほか、次の 2 つの方法によっても悩みを収集した。

- a. 対人恐怖症者との面接記録の中から、本人の訴えや自分の性格や行動に関して本人が抱いていると思われる問題点をできるだけ多数収集した。b. 次に、市販されている性格検査等の質問項目のうち、自分の性格や行動傾向に関する不満や悩みを表現していると思われる項目や社人場面での不安や緊張感などを表現していると思われる項目を抽出した。用いた性格検査は、MMPI, YG, CAS, CMI, PCL (教研式プロブレ・チェックリスト) である。

以上の方法によって収集された悩みのうち、例えば、「勉強するための時間がない」とか、「小遣いが少ない」、「学校が遠くて困る」などの外的事象に係る悩みや不満を除き、「気が弱い」とか「グループの雰囲気にとけ込めない」などといった自己の主観と関係して評定される性格や行動傾向を表わす内容に限定して収集した。このようにして集められた悩みについて、悩みの表現を整理し、一つの記述（文章）が一つの悩みを表わすように改め、カードにした。カードとして整理された悩みの項目は 600 項目となったが、更にカードを分類し、同種の類似した悩みをまとめたり、除外したりして整理した結果、445 項目からなる調査票を作成することができた。

次に、この 445 項目の悩みについて、7 段階の自己評定ができるようにした。つまり、調査票の個々の項目について、それが自分に当てはまるかどうか、“非常に当てはまる (+6)”，から“どちらともいえない (+3)”，“非常に当てはまらない (0)”までの 7 段階のいずれかに自己評定をおこない、+6～0 までに得点化できるようにした。

この尺度を上記一般大学生 100 名（男子 80，女子 20）と対人恐怖に悩む者 50 名（男子 32，女子 17）に施行した。大学生は悩みの収集の際に用いたものと同一の集団である。対人恐怖群は種々の対人恐怖症状を訴えて S 矯正施設に通院もしくは入院している者である。（この施設に來談する対人恐怖症者の集団の特徴、例えば、症状の種類、年齢、性などは後に述べる。）

その結果、445 項目のすべてについて、両群ごとに平均と標準偏差値を求め、次に、平均の差違について検討した。その結果、一般大学生の方が平均値の高い項目、すなわち、一般大学生の方がより悩んでいると評定されている項目は、わずかに 22 項目にすぎず、あとの項目はすべて、対人恐怖の者の方が高得点を示した。また、全項目について、両群間の有意差の検討をしたところ、445 項目中、有意な差の認められた項目は 365 項目に達した。

附表に示したものは、1% 水準で有意差の認められた 341 項目の悩みの項目の内容と、各群における各項目ごとの平均値と標準偏差値である。この内容からもわかるとおり、対人恐怖に悩む者は、あらゆる側面において、自己を否定的にとらえていることがわかる。彼等は一般の大学生に比べて常に自己を問題視し、悩んでいることがわかる。

以上の資料からも、対人恐怖症のもつ特異な意識性について認識することができるが、それが、どのような領域で顕著なのか、また、このような問題意識がどのような状況で著しく意識化されるのか、ここでは必ずしも明確ではない。そこで、便宜的にはあるが、341 項目のうち、有意性の推定のために用いられた  $t$  の値から、順次、有意水準の高いと思われる項目を 75 抽出し、( $t > 5.0$ )、項目の内容について検討を加えてみた。その結果、次のように分類することが可能と思われた。

#### 「自己」に関する悩み

- a. 小心である。気が弱い。劣等感が強い。神経質である。不安が強い。すぐ気持がくじける。心で思っていることと行動が一致しない。
- b. 気持が安定していない。気分が落ちつかない。落ちつきがない。気分の動揺がはげしい。感情の起伏が激しい。気分のむらが激しい。イライラして落ちつきがない。いつも何か焦っている。いつも不機嫌でふさぎこむ。
- c. 一つの事に集中できない。何をやるにも集中できない。精神を集中するのに他の人より苦勞する。ものごとに熱中できない。あきっぽい。ひとつの仕事にうち込むことができない。根気がなく何事も長続きしない。
- d. 何もやる気がおこらない。何をするにも自信がない。無気力である。引込み思案である。
- e. いつも何かについてくよくよ心配する。ちょっとしたことをくよくよ気にする。ささいなつまらないことに悩む。つまらないことをくよくよ考える。先の事を考え過ぎる。
- f. いろいろなことにかまけてしまい、本当に自分らしい生き方ができない。充実して生きている感じがしない。生きている価値が見い出せない。
- g. 希望がもてない。将来の自分にはあまり大きな期待がもてない。一人の人間として、自立してゆけないのではないかと思う。

#### 「対人関係」に関する悩み

- h. 対人関係がぎこちない。対人関係がうまくゆかない。特定の人以外の人と話すのが苦痛。
- i. 多人数の雰囲気になかなかとけ込めない。グループでのつきあいは苦手である。数人から数十人のグループのつき合いが苦手である。

- j. 他人のことがよく思えて自分がみじめになる。自分も他の人のように幸福だったらなあと思うことがある。
  - k. そばに人がくると落ちつけない。人がそばにいと仕事がやりにくい。
  - l. 友達と一緒にいるとき、顔がこわばったり、赤くなって緊張することがある。向い合って仕事をしているとき、相手に顔をみられるのがつらい。
  - m. 自分が相手の人にイヤな感じを与えているように思えて困ってしまう。自分が不快な感じを相手に与えているように思えて困ってしまう。相手にイヤな感じを与えるような気がして、相手の顔色をうかがってしまう。他人に対して申しわけない気持が強い。自分が人にどう見られているのかよくよ考えてしまう。他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる。人と会うとき、自分がその人にどんな風にみられているのか気になる。人のことが気になる。他の人を気にしすぎる。まわりの人から見られていることを強く意識する。
  - n. 自分のことが他の人に知られるのではないかとよく気にする。自分のことが皆に知られているような感じがして、思うように振舞えない。自分のおかしいことが人に知れて、家の者に迷惑をかけるのではないかと気になる。自分の弱点や欠点を知人に知られるのがこわい。友達と話をしているとき、何か自分の欠点をいわれはしないかと不安になる。
  - o. 知らない人より、知っている人と会う時の方が緊張する。付き合いの長い友人と話す時も緊張がとれない。友達と雑談していても、心からくつろげない。友達の家にいっても、その家族の人とうちとけられない。
  - p. 何か注意されたり、ちょっと叱られても気が転倒してみじめになる。人から批評されたり、小言をいわれたりすると、非常に感情を害される。自分は人からやり方が悪いと思われただけで自分のやりたいことも止めてしまうところがある。
- その他
- q. 調子のわるい時はなるべく人をさける。人前で自分の名前を呼ばれるのがこわい。学校が嫌いで困った。

a は対人恐怖症の自己像を示すもので、彼等の自己概念はここにあげられた項目のように、「小心」「気が弱く」「神経質」「劣等感」といった否定的な様相をおびていることがわかる。b で示めされている内容は、症者の感情や気分が不安定で、落ちつかず、かつ動揺がはげしくて常に焦燥感のあることを示している。彼等は自分自身の気持や感情がこのような状態にあると思っているのである。c は注意の集中や持続に関するもので、ここから、彼等が自己の精神エネルギーが分散してしまつて、一つのことに打ち込めない状態にあると自己をとらえていることがわかる。このことは、d とも関係することで、やる気のなさと同時に自信のなさがあり、すぐに自分の内にこもってしまう傾向を示している。e はものごとに「こだわる」ことやささいなことにくよくよ考え込む傾向を表わし、神経質といわれる傾向の基底をなすものである。f と g は生き方に関する悩みで、e は自分が充実感を伴う自分らしい生き方をしていないという意識を表わし、g は自己の将来についても希望をもてないことを示している。以上 a ~ g までは対人恐怖症者の「自己」について

の悩みであるが、彼等は対人関係にだけ悩むのではなく、自分自身についても否定的な評価を下し、そこでも悩んでいるといえる。症状だけではなく、自分自身に対しても問題意識をもっているといえる。

hからqまでの項目はすべて「対人関係」のうちに出現してくる悩みである。hは対人関係全般についての不適合感を表わし。iは集団場面への不適合感を示すものである。jは自分と他人の関係を示すもので、自己と他人がかかわりを失ってしまう傾向を示し、自分が一人とりのこされてみじめであるのに、他人がすばらしくよく見えるということで、iの集団不適合感と連なる意識と思われる。kは対人意識が熾烈なあまり、人が自分のそばにただで緊張してしまう傾向を表わす。これは次のlとも関連するもので、lでは緊張が顔面に絞ばられて症状となっている。ここでは、自分自身にますます注意が集中してしまう。

m, n, o, は対人恐怖症の者が抱く特有の感情と思われるもので、これらの悩みから、症者の心理力動の一部がうかがわれる。hは自分が相手の人に不快感を与えているのではないかと考え、相手を気にする傾向である。これは、自分はもともと他人にとって不愉快な存在であるという内的確信を前提とするものである。この前提のゆえに、相手を気にするという態度が生まれてくるように思われる。iは自分がおかしいことをまわりの人が知るのでないかという不安である。この悩みは、hとも関連しているのであるが、自分の本当の姿を知られることの恐れとも考えられる。対人恐怖の者は、本当の自分とは相手が知れば不快をもよおすような人間であり、本当の自分を知られることが恐ろしいと考えているようである。そして、全くの他人であるとか自己の醜態をさらすことのできる身内の者には、自己の真の姿を見せることは不安ではないが、oで示めされるような関係では親しくなればなるほど恐怖を感じるのである。つまり、ある程度親しくなればなるほど、不安や緊張を体験するわけで、普通ならば、当然リラックスできるはずのところを自分だけはますます緊張してしまう悩みである。pは対人関係において否定的に見られることに対する過敏さを示すもので、ちょっとした批判にも著しく感情を害されるのである。

以上、一般の大学生に比べて極めて著しい差違のあると思われる項目を75選出し、考察を加えてみたが、症者のもつ自己意識や対人意識について明言するにはまだ到っていない。有意性のある、症者に特徴的な悩みの項目間にはどのような関連があるのかについても明らかではない。そこで、これらの項目の内容を更に吟味して、類似の項目を少なくし、更に少数の項目に絞って、これらの悩み相互間の関係を検討することにした。

## II 対人恐怖症者のもつ「悩み」の構造の分析

Iで得られた悩みを分析した結果、症者の悩みが非常に多岐にわたることが明らかとなった。しかし、附表からもわかるとおり、われわれの収集した悩みにはいまだ類似したものも多く、更に整理することが必要と思われた。われわれは341の悩みを可能な限りまとめ、170項目に整理した。そこで、この170の項目について、対人恐怖症者に自己評定を求め項目間相関係数を算出した。その結果、相関の極めて高い項目を排除し、117項



第2表 S院における対人恐怖

				1953~1955	1962	計
例			数	290	270	560
男	・	女	比	79.7 : 20.3	70 : 30	3 : 1
10	~	14	才	2	0	2
15	~	19	才	89	91	180
20	~	24	才	133	121	254
25	~	29	才	49	32	81
30	~	34	才	9	10	19
35	~	39	才	8	9	17
40	~	44	才	0	2	2
45	~	49	才	0	5	5
長	男：次	男	以下	132 : 99	62 : 127	194 : 226
長	女：次	女	以下	30 : 29	38 : 43	68 : 72
赤	面	恐	怖	127	152	279
大	衆	恐	怖	121	128	249
演	説	恐	怖	97	103	200
異	性	恐	怖	84	112	196
談	話	恐	怖	82	106	188
正	視	恐	怖	77	95	172
劣	等	恐	怖	55	115	170
交	際	恐	怖	72	73	145
長	上	恐	怖	59	75	134

加藤 (1964)

目の調査票を作成した。項目の詳細は附表に示すとおりである。

次に、この 117 項目で表わされた悩みがどのように関連しているか、また、これらの悩みはどのような構造をもっているのか因子分析法を用いて検討することにした。そこで、これらの悩みについて、対人恐怖症者 120 名（男子 85，女子 35）に前回と同様 7 段階評定による自己評定を求めた。

被験者は、I の場合と同様東京都内にある S 矯正施設に通院または入院している者である。S 院は病院などの医療施設とは異なった民間の矯正施設で、対人恐怖と吃りなどの言語障害の矯正にあたっている。ここでは、対人恐怖に対する夜間の講義が開放されており、多くの症者が通院して自己の問題を矯正しようとして努力している。第 2 表は S 院に来談した者の資料であるが、年令は 20~24 才の者が多く、男女の比率はほぼ 3 : 1 である。症状は一つの症状だけを訴える者はあまりなく、ほとんどは他の症状と重複しているのが数が多くなっているが、赤面恐怖、大衆恐怖、演説恐怖、異性恐怖、談話恐怖の順で多いのがわかる。本調査はこのような集団に対して施行したものである。

以上の手続きで得られた得点をもとに 117×117 項目の相関 matrix を作成し、その結果を centroid 法によって因子を抽出し、varimax 回転をおこなった。

第3表 悩みの項目 (117 項目) 各項目の平均 (M) と標準偏差値 (SD) N=120

Item No.	M (SD)	Item No.	M (SD)	Item No.	M (SD)	Item No.	M (SD)
1	4.68 (1.33)	31	3.88 (1.28)	61	3.91 (1.50)	91	4.00 (1.54)
2	4.18 (1.56)	32	4.70 (1.15)	62	3.77 (1.85)	92	4.17 (1.49)
3	4.64 (1.29)	33	4.28 (1.31)	63	4.00 (1.94)	93	3.84 (1.60)
4	4.74 (1.13)	34	3.54 (1.49)	64	4.52 (1.42)	94	3.70 (1.82)
5	4.31 (1.45)	35	4.04 (1.48)	65	4.28 (1.40)	95	3.90 (1.22)
6	4.18 (1.51)	36	4.28 (1.35)	66	4.27 (1.50)	96	4.27 (1.53)
7	4.52 (1.36)	37	4.55 (1.42)	67	3.77 (1.77)	97	3.40 (1.68)
8	4.35 (1.33)	38	4.77 (0.92)	68	4.04 (1.54)	98	3.02 (1.78)
9	4.60 (1.47)	39	4.50 (1.26)	69	3.71 (1.70)	99	3.85 (1.57)
10	4.14 (1.43)	40	4.20 (1.32)	70	3.24 (1.84)	100	3.02 (2.07)
11	4.07 (1.47)	41	4.32 (1.43)	71	3.80 (1.69)	101	4.07 (1.53)
12	4.88 (1.35)	42	3.32 (1.44)	72	3.68 (1.76)	102	4.38 (1.56)
13	4.20 (1.60)	43	4.02 (1.41)	73	4.42 (1.48)	103	4.30 (1.49)
14	4.65 (1.20)	44	3.77 (1.38)	74	4.25 (1.40)	104	4.10 (1.75)
15	4.44 (1.36)	45	3.90 (1.62)	75	4.45 (1.46)	105	4.65 (1.49)
16	3.88 (1.67)	46	4.32 (1.34)	76	3.57 (1.74)	106	4.42 (1.58)
17	3.32 (1.73)	47	4.05 (1.46)	77	3.82 (1.58)	107	4.20 (1.63)
18	3.67 (1.69)	48	4.22 (1.65)	78	3.38 (1.55)	108	4.47 (1.43)
19	3.30 (1.87)	49	4.15 (1.46)	79	3.17 (1.67)	109	4.10 (1.63)
20	3.12 (1.96)	50	4.25 (1.19)	80	4.17 (1.46)	110	3.88 (1.61)
21	4.92 (1.16)	51	4.42 (1.20)	81	4.72 (1.37)	111	4.20 (1.43)
22	4.78 (1.22)	52	4.32 (1.29)	82	4.55 (1.48)	112	3.84 (1.42)
23	3.82 (1.38)	53	4.04 (1.66)	83	3.64 (1.68)	113	3.82 (1.66)
24	4.38 (1.27)	54	4.22 (1.62)	84	4.25 (1.31)	114	4.11 (1.81)
25	4.28 (1.46)	55	4.00 (1.62)	85	4.10 (1.68)	115	3.78 (1.73)
26	4.87 (1.13)	56	3.62 (1.32)	86	4.28 (1.49)	116	3.64 (1.65)
27	4.71 (1.24)	57	4.24 (1.55)	87	4.60 (1.30)	117	3.90 (1.55)
28	4.54 (1.25)	58	4.51 (1.44)	88	3.60 (1.72)		
29	4.28 (1.38)	59	4.10 (1.36)	89	3.88 (1.60)		
30	3.75 (1.42)	60	4.10 (1.31)	90	4.15 (1.43)		

112 項目の得点と標準偏差値は次に示すとおりである。

因子分析の結果、8 個の因子を抽出することができた。回転後の因子負荷量行列は次に示す。軸の回転後の各因子の共通性に対する割合は、第Ⅰ因子 15.33%、第Ⅱ因子 16.58%、第Ⅲ因子 9.40%、第Ⅳ因子 16.26%、第Ⅴ因子 15.76%、第Ⅵ因子 13.30%、第Ⅶ因子 8.48%、第Ⅷ因子 4.85% であった。各因子ごとに、因子負荷量の高い項目を図示すると次のようになる。

各因子ごとに因子負荷量の高い項目を吟味し (第 6 表～第 13 表)、因子を命名した。

第4表 回転後の因子負荷量行列

No.	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	h <sup>2</sup>
1	0.223	0.347	0.449	-0.208	0.206	-0.251	-0.257	-0.167	0.616
2	0.223	0.182	0.095	-0.597	0.220	-0.251	-0.164	-0.123	0.604
3	0.062	0.159	0.364	-0.325	0.292	-0.394	-0.164	-0.061	0.540
4	-0.068	0.552	0.453	0.000	-0.091	-0.170	-0.028	-0.132	0.571
5	-0.240	0.420	0.235	0.098	0.052	-0.327	-0.161	-0.246	0.497
6	-0.012	0.308	0.260	-0.144	0.161	-0.094	-0.328	-0.253	0.391
7	0.006	0.679	0.122	-0.182	-0.033	-0.159	-0.090	-0.028	0.545
8	-0.098	0.648	0.170	0.003	-0.029	-0.018	-0.070	-0.157	0.490
9	0.257	0.260	0.190	-0.452	-0.080	-0.263	-0.200	-0.068	0.496
10	0.027	0.748	0.015	-0.251	-0.064	-0.033	-0.129	-0.041	0.649
11	0.220	0.604	0.058	-0.211	0.091	-0.304	-0.182	-0.106	0.608
12	0.024	0.411	0.287	-0.041	0.177	-0.342	0.075	0.136	0.427
13	0.299	0.476	0.091	-0.129	0.104	-0.095	-0.173	-0.165	0.420
14	-0.099	0.071	0.325	-0.186	0.131	-0.641	-0.145	-0.124	0.621
15	0.517	0.577	0.023	-0.113	0.181	-0.199	0.001	-0.017	0.687
16	0.342	0.454	0.172	-0.027	0.266	-0.300	-0.038	-0.132	0.534
17	0.251	0.047	0.009	-0.484	0.230	0.020	-0.016	-0.000	0.354
18	0.229	0.166	0.004	-0.083	0.210	-0.603	-0.181	-0.106	0.517
19	0.162	0.167	0.014	-0.292	0.174	-0.641	-0.083	0.157	0.614
20	0.176	0.168	0.017	-0.283	0.205	-0.694	-0.045	0.080	0.673
21	0.137	0.710	0.213	-0.107	0.067	-0.112	-0.123	0.076	0.619
22	0.303	0.280	0.436	-0.031	-0.074	-0.451	-0.379	-0.000	0.716
23	0.282	0.315	0.054	-0.282	0.176	-0.454	-0.068	-0.080	0.511
24	0.162	0.607	0.029	-0.080	0.303	-0.159	0.134	-0.028	0.539
25	0.259	0.224	0.169	-0.146	0.414	-0.423	-0.196	-0.023	0.558
26	0.368	0.358	0.232	-0.115	0.327	-0.098	0.041	0.203	0.492
27	0.333	0.323	0.118	-0.188	0.304	-0.013	-0.094	0.360	0.497
28	0.023	0.605	0.215	-0.060	0.298	-0.440	0.011	0.128	0.717
29	0.342	0.436	0.132	-0.166	0.355	-0.337	-0.367	-0.165	0.756
30	0.352	0.491	0.029	-0.125	0.222	-0.413	-0.237	-0.223	0.708
31	0.400	0.462	0.168	-0.153	0.293	-0.143	0.022	-0.227	0.586
32	0.416	0.461	-0.019	-0.084	0.182	-0.254	-0.151	0.258	0.582
33	0.144	0.711	-0.008	-0.159	0.240	0.046	-0.173	0.127	0.658
34	0.363	0.371	0.020	-0.275	0.230	-0.370	-0.061	-0.115	0.554
35	0.311	0.761	0.045	-0.152	0.182	0.002	0.009	-0.062	0.739
36	0.031	0.483	-0.008	-0.012	0.464	-0.434	0.082	-0.168	0.674
37	-0.200	0.321	0.112	-0.119	0.307	-0.517	-0.433	-0.174	0.750
38	0.119	0.456	0.359	-0.189	-0.033	-0.444	0.144	0.019	0.607
39	-0.055	0.199	0.282	-0.270	0.067	-0.578	-0.180	-0.296	0.655
40	0.281	0.638	-0.105	-0.096	0.365	-0.177	0.030	0.097	0.683
41	0.355	0.264	0.096	-0.093	0.341	-0.436	-0.122	-0.086	0.544
42	0.291	0.529	-0.123	-0.074	0.396	-0.136	-0.140	0.132	0.599
43	0.132	0.533	0.038	-0.093	0.153	-0.138	-0.411	-0.061	0.529
44	0.272	0.514	0.160	-0.267	0.157	-0.307	-0.263	-0.286	0.706
45	0.045	0.238	0.035	-0.033	0.055	-0.112	-0.684	-0.044	0.547
46	0.066	0.133	0.092	-0.207	0.161	-0.598	-0.148	-0.255	0.545
47	-0.038	0.586	0.224	-0.023	0.019	-0.083	0.014	-0.363	0.536
48	0.577	-0.234	-0.020	-0.079	0.356	-0.351	-0.156	-0.150	0.693
49	0.038	-0.533	-0.121	-0.304	-0.068	-0.266	-0.339	-0.107	0.596
50	0.272	0.163	0.118	-0.178	0.163	-0.582	-0.163	-0.063	0.543

第4表 つ づ き

No.	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	h <sup>2</sup>
51	0.106	0.146	0.351	-0.242	0.037	-0.516	-0.173	-0.200	0.553
52	0.156	0.325	0.557	0.006	0.207	-0.344	0.082	0.101	0.620
53	0.550	0.179	0.282	-0.312	0.301	0.182	-0.226	-0.106	0.698
54	0.666	0.124	0.124	-0.320	0.332	-0.136	-0.055	-0.150	0.732
55	0.500	0.211	0.372	-0.347	0.388	0.006	-0.208	-0.131	0.766
56	0.551	0.362	0.234	-0.082	0.163	-0.099	-0.122	-0.037	0.550
57	0.776	0.165	0.063	-0.250	0.144	-0.117	-0.143	-0.067	0.758
58	0.611	0.058	0.084	-0.454	0.012	-0.227	-0.276	-0.031	0.720
59	0.468	0.309	0.248	0.033	0.106	-0.520	-0.252	0.033	0.726
60	0.298	0.207	0.364	-0.174	0.120	-0.509	0.010	-0.055	0.573
61	0.498	0.103	0.087	-0.469	0.292	-0.248	-0.001	-0.121	0.650
62	0.057	0.049	0.244	-0.631	0.403	-0.221	-0.176	0.049	0.709
63	0.336	-0.055	0.235	-0.389	0.618	0.015	-0.074	-0.110	0.724
64	0.496	-0.023	0.386	-0.230	0.319	-0.263	-0.030	-0.040	0.623
65	0.328	0.161	0.546	-0.335	0.478	-0.139	-0.081	-0.231	0.853
66	0.208	0.083	0.358	-0.483	0.101	-0.337	-0.095	-0.104	0.556
67	0.268	0.153	0.140	-0.256	0.590	-0.297	-0.165	-0.115	0.659
68	0.250	0.293	0.024	-0.210	0.596	-0.286	-0.240	-0.091	0.698
69	0.490	0.295	0.080	-0.662	0.115	-0.155	0.014	-0.221	0.859
70	0.301	0.133	0.041	-0.596	0.255	-0.077	0.020	-0.201	0.579
71	0.569	0.112	0.153	-0.639	0.079	-0.174	0.052	-0.138	0.829
72	0.299	0.163	0.275	-0.295	0.303	-0.292	-0.177	-0.227	0.540
73	0.309	0.245	0.079	-0.617	0.086	-0.079	-0.418	0.039	0.733
74	0.295	0.201	0.687	-0.111	0.189	-0.314	-0.052	-0.206	0.793
75	0.148	0.254	0.058	-0.567	0.032	-0.210	-0.477	0.134	0.704
76	0.028	0.172	-0.137	-0.528	0.580	-0.353	-0.095	0.031	0.801
77	0.239	0.107	0.446	-0.155	0.278	-0.029	-0.350	-0.308	0.589
78	0.226	0.286	0.415	-0.106	0.324	-0.223	-0.106	-0.015	0.484
79	0.323	0.158	0.313	-0.125	0.417	-0.076	-0.245	-0.063	0.488
80	0.506	0.165	0.328	-0.203	0.369	-0.218	-0.107	-0.009	0.629
81	0.348	-0.133	0.154	-0.211	0.279	-0.261	-0.623	0.023	0.744
82	0.211	0.160	0.067	-0.206	0.211	-0.202	-0.740	-0.214	0.797
83	-0.033	0.183	0.190	-0.566	0.349	-0.187	-0.288	-0.136	0.652
84	0.182	0.090	0.569	-0.251	0.374	-0.045	-0.343	-0.104	0.701
85	0.898	0.020	0.295	-0.320	0.753	-0.159	-0.164	-0.002	0.820
86	0.034	0.069	0.077	-0.521	0.173	-0.437	0.147	-0.166	0.554
87	0.226	-0.114	0.172	-0.138	0.334	-0.266	-0.431	-0.276	0.558
88	0.300	0.112	0.044	-0.068	0.356	-0.105	-0.029	-0.570	0.574
89	0.306	0.005	0.236	-0.006	0.242	-0.049	-0.114	-0.621	0.611
90	0.359	0.086	0.520	-0.195	0.298	0.000	-0.001	-0.455	0.742
91	0.359	0.112	0.093	-0.208	0.519	-0.221	-0.319	-0.238	0.672
92	0.161	0.213	0.192	-0.572	0.156	-0.310	-0.133	-0.264	0.645
93	0.264	0.285	0.127	-0.636	0.272	0.017	-0.074	0.193	0.691
94	0.170	0.110	0.191	-0.170	0.611	-0.286	-0.190	0.087	0.607
95	0.070	0.056	0.256	-0.022	0.540	-0.110	-0.056	-0.113	0.394
96	0.674	0.025	0.229	-0.281	0.260	-0.131	-0.218	-0.056	0.724
97	0.169	0.234	0.064	-0.204	0.561	-0.049	-0.236	-0.012	0.529
98	0.359	0.222	0.083	-0.227	0.549	-0.322	-0.013	-0.128	0.660
99	0.316	0.106	0.224	-0.290	0.591	0.075	-0.063	0.033	0.606
100	0.000	0.130	0.070	-0.502	0.421	-0.197	-0.165	0.025	0.519

第4表 つ づ き

No.	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	h <sup>2</sup>
101	0.562	0.053	0.054	-0.645	0.068	-0.253	-0.023	-0.071	0.813
102	0.576	-0.017	-0.077	-0.601	0.032	-0.271	-0.107	-0.026	0.789
103	0.584	0.247	0.250	-0.349	0.401	-0.131	-0.110	-0.095	0.788
104	-0.177	0.119	0.178	-0.497	0.132	-0.137	-0.572	0.060	0.693
105	0.234	0.061	0.287	-0.271	0.305	0.017	-0.652	0.159	0.760
106	0.131	0.060	0.416	-0.296	0.298	-0.040	-0.487	0.074	0.616
107	0.105	-0.002	0.215	-0.074	0.370	-0.198	-0.084	-0.353	0.372
108	0.009	0.001	0.593	-0.056	0.222	-0.165	-0.209	-0.044	0.478
109	0.072	0.148	0.341	-0.537	0.114	-0.431	-0.127	0.070	0.653
110	0.094	0.242	0.083	-0.152	0.621	-0.185	0.046	-0.375	0.662
111	0.324	0.246	0.047	-0.256	0.440	-0.182	-0.319	0.071	0.568
112	0.267	0.251	0.003	-0.673	0.182	-0.052	-0.157	0.148	0.672
113	0.114	0.095	0.074	-0.646	0.458	-0.126	-0.172	-0.054	0.704
114	0.029	-0.028	-0.003	-0.584	0.454	-0.379	-0.165	-0.037	0.723
115	0.155	0.106	0.162	-0.224	0.720	-0.148	-0.058	-0.195	0.695
116	0.150	0.200	0.240	-0.462	0.181	-0.145	-0.164	0.060	0.420
117	0.474	0.255	0.402	-0.204	0.141	-0.089	-0.178	-0.142	0.574
ΣK <sup>2</sup>	11.239	12.147	6.887	11.918	11.550	9.753	6.217	3.567	73.281
%	15.338	16.580	9.402	16.266	15.761	13.305	8.483	4.859	100

### 第 I 因 子

この因子は、グループとか集団に対する違和感、不適合感などを訴え、集団という対人場面で自由に振舞えない悩みを表わすもので、“集団にとけ込めない” 悩みと命名した。

この悩みは、グループや仲間集団の雰囲気に対し、異質な自分を意識し、それにとられるあまり、自分だけがとり残されるように感ずることである。ここでの悩みは自分が集団の中に「とけ込めない」ということで、集団の中で没个性的になれないといったニュアンスを感じさせるところがある。また、この悩みには、Iの研究での i, h, j などが関係していると思われる (第6表)。

### 第 II 因 子

この因子は、対人場面で強く意識される悩みとは多少異なっていて、自分自身についての不満足感、問題意識を表わす個人的不適合感と思われる。そこで、“自分に満足できない” 悩みと命名した。

この因子は、Iの研究の a, b, c, d, e と関係するもので、自己の精神機能に対する不満足感を反映している。これは、自分自身が受容できないという否定的自己意識でもある。このように常に自己を問題視する傾向は対人恐怖症だけでなく、神経症的な者に共通した特徴であるが、これは見方によっては、自己愛的な感情に裏打ちされた自己に対する非現実的な態度である。これらの自己に対する complaints の存在は対人恐怖症者のもつ万能感的な願望的な自己認知のしかたが認められるのである (第7表)。

### 第 III 因 子

この因子は“他人が気になる”悩みと命名した。これは、人間関係において、常に相手を気にし、相手の感情を配慮し、相手が自分をどのように見ているか気になる悩みである。相手が自分に対して悪感情をもつことに耐えられず、常に相手を意識しなければならないことから出現する悩みである。

この悩みは、Iの研究でのm, nと関係しているもので、対人恐怖に特徴的な対人意識でもある。また、この種の意識は日本人が固有にもつ対人意識とも極めて近いものと思われる。つまり、相手の自分に対する感情の如何によって自己の行動を相対的に決定したりすることとも関係し、この種の人間「関係」的動因が行動決定にさいして極めて重要な役割を果すのである（第8表）。

### 第 IV 因 子

この因子は“くつろいで人とつき合えない”悩みと命名した。この因子を構成する項目

第5表 因子負荷量と各因子項目との関係

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
高 ↑	57	35 10 33 21			85 115			
0.7	96 54 58	7 8 40 24 28 11	74		110 63 94			
0.6	103 48 102 71 101 56 53 15	47 15 4 43 49 42 44	108 84 52 65 90		68 99 67 76 97 98 95 91			
0.5	80 55 61 64 69 117 59 32	30 36 13 31 32 38 16 29 5 12	4 1 77 22 106 78		65 36 113 114 111 100 79 25			
↓ 低 0.4								

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
-0.4 低 ↑ 負の因子負荷量の高い項目の番号				9 58 116 61 66 17 104		30 25 109 36 41 86 28 38	43 73 87 37 75 106	90
-0.5				100 86 76 109 83 75 92 93		22 23 60 51 37 59 39 50 46	104	88
-0.6				114 70 2 102 73 62 71 101 113 69 112		18 19 14 2 20	81 105 45	89
-0.7 ↓ 高							82	

は、他の因子にも高い負荷量を示すものが多く、かなり複合的な要素をもった因子である。この因子は、一般に緊張感が強く、気心の合った人との間でもリラックスできない悩みである。これはⅠにおけるo, l, iなどに関係するもので、くつろいだ人間的な接触ができず、緊張してギコチなくなるところからくる恐れを表している。この種の悩みは、特定の対人場面で経験されるのではなく、対人場面全般において経験されるものである。恐らく、この種の悩みは、対人場面から由来する刺激によって出現するものではなくて、自己の内的な不安、緊張感に由来するものと思われる（第9表）。

#### 第Ⅴ因子

この悩みは、対人場面において、自分の表情や目つきなど自己に注意が集中してしまうもので、“自分が気になる”悩みと命名した。

この悩みは緊張している自分に注意が集中してつらくなるもので、Ⅰの研究でのl, kと関係するものである。ここでの自己へのとらわれは、顔、目つき、表情などで症状発症時の臨場感に近い。これに反し、第Ⅲ因子の“相手が気になる”悩みは、この因子と逆の形を取り、相手に対する配慮であり、とらわれであるといえる。しかし、全く逆かということ必ずしもそうではなく、重複している項目もあるように、相手に対して「こだわっている」間は第Ⅲ因子の悩みとして類別できるが、一端、その不安が著しくなると、自分の動きに

第6表 第I因子, “集団に溶け込めない” 因子

Item No.	因子 負荷量	項 目
57	.776	集団の中にとけ込めない
96	.674	グループでのつきあいが苦手
54	.666	人との交際が苦手である
58	.611	人が多勢いるとうまく会話の中に入ってゆけない
103	.584	対人関係がぎこちない
48	.577	自分もほかの人のように幸福だったらなあと思うことがある
102	.576	多人数の雰囲気になかなか溶け込めない
71	.569	仲間の中に溶け込めない
101	.562	グループの雰囲気になじめず異和感を感じてしまう
56	.551	他人を羨やんだりねたんだりする
53	.550	多くの人と友だちになることができない
15	.517	充実して生きている感じがしない
80	.506	自分が不愉快な感じを他人に与えているように思えて困ってしまう
55	.500	人との接触がうまくゆかない
61	.498	友だちと雑談していても心からくつろげない
64	.496	人と会うときに自分がその人にどんな風に見られているか気になる
69	.490	人と自然につき合えない
117	.474	人とどのようにつき合ったらよいのかわからない
59	.468	すぐ自分だけがとり残されたような気持になる
32	.416	引っ込み思案である

第7表 第II因子, “自分に満足できない” 因子

Item No.	因子 負荷量	項 目
35	.761	根気がなく何事も長続きしない
10	.748	ものごとに熱中できない
33	.711	計画をたてても実行が伴わない
21	.710	気が弱い
7	.679	意志が弱い
8	.648	決断力がない
40	.638	何をやるにも集中できない
24	.607	1つのことに集中できない
28	.605	気持が安定していない
11	.504	何をやるにも自信がない
47	.586	気分がすぐに変る
15	.577	充実して生きている感じがしない
4	.552	すぐ気持がくじける
43	.533	困ったことがあるとすぐ逃げ出そうとする



49	.533	むずかしい問題があまり重なっていると、やる前から気持ちがくじけてしまう
42	.529	何もやる気がおこらない
44	.514	何をやってもうまくゆかない感じがする
30	.491	いつも不気嫌でふさぎこむことがある
36	.483	気分が落ち着かない
13	.476	将来の自分にはあまり大きな期待がもてない
31	.462	物事を手際よくできない
32	.461	引っ込み思案である
38	.456	ちょっとしたことをくよくよ気にする
16	.454	生きていることに価値が見出せない
29	.436	すぐまごついたりとまどったりする
5	.420	感情的すぎる
12	.411	神経質である

第8表 第Ⅲ因, “他人が気になる” 因子

Item No.	因子 負荷量	項	目
74	.687	自分が人にどう見られているかくよくよ考えてしまう	
108	.593	人から批評されたり小言をいわれたりすると非常に感情を害される	
84	.569	他人が自分をどのように思っているかとても不安になってしまう	
52	.557	つまらないことをくよくよ考える	
65	.546	自分が相手の人にイヤな感じを与えているように思ってしまう	
90	.520	相手にイヤな感じを与えるような気がして相手の顔色をうかがってしまう	
4	.453	すぐ気持ちがくじける	
1	.449	自分の弱点や欠点を他人に知られるのがこわい	
77	.446	人と話していて自分のせいで座が白けたように感ずることがある	
22	.436	劣等感が強い	
106	.416	会議などでの発言が困難である	
78	.415	人の笑い声を聞くと自分のことが笑われているように思う	

第9表 第Ⅳ因子, “くつろいで人とつき合えない” 因子

Item No.	因子 負荷量	項	目
112	-.673	目上の人との付き合いができない	
69	-.662	人と自然に付き合えない	
113	-.646	知っている人を見かけても、顔を合わせないように道をさけてしまう	
101	-.645	グループの雰囲気になじめず、異和感を感じてしまう	
71	-.639	仲間のなかに溶け込めない	
62	-.631	友だちと一緒にいるとき、顔がこわばったり赤くなって緊張することがある	
73	-.617	話しかたが下手である	

102	-.601	多人数の雰囲気になかなか溶け込めない
2	-.597	2人きりでいると相手を意識してしまって緊張してしまう
70	-.596	昔からよく知っている友だちともなかなか話しかけることができない
114	-.584	顔をじーっと見られるのがつらい
93	-.576	人と話すときいい出しにくい
92	-.572	自分のことが他の人に知られるのではないかとよく気にする
75	-.567	人前に出るとオドオドしてしまう
83	-.566	多勢の人とすれ違うときとても緊張する
109	-.537	何か注意されたり、ちょっと叱られても気が転倒しみじめになる
76	-.528	人と目を合わせられない
86	-.521	調子の悪いときはなるべく人を避ける
100	-.502	近所の人に会うと赤面し体が固くなる
104	-.497	多勢の人の前にいくと足がふるえ胸がつまる
17	-.484	異性の友だちと話ができない
66	-.483	職場、学校のクラス、近所の人に自分がどのように思われているが気になる
61	-.469	友だちと雑談していても心からくつろげない
116	-.462	友だちと話をしているときは、何か自分の欠点をいわれはしないかと不安になる
58	-.454	人が多勢いると、うまく会話の中に入ってゆけない
9	-.452	自意識過剰である

第 10 表 第V因子, “自分が気になる” 因子

Item No.	因子 負荷量	項 目
85	.753	向い合って仕事をしているとき、相手に顔を見られるのがつらい
115	.720	人の目を見るのがとてもつらい
110	.621	人と話をするとき、目をどこへもっていいかわからない
63	.618	人と会うときに自分の顔つきや目つきがその人に悪い印象を与えるのではないかと不安になることがある
94	.611	話をしているとき顔がこわばってイヤな表情になる
68	.596	そばに人が来ると落ちつけない
99	.591	友だちの家へ行っても、その家族の人とうちとけられない
67	.590	人と目が合うとき自分の目つきが気になる
76	.580	人と目を合わせられない
97	.561	初対面の人がこわい
98	.549	つき合いの長い友人と話をするときも緊張がとれない
95	.540	他人に対して申し訳けない気持が強い
91	.519	自分のことが皆に知られているような感じがして思うように振舞えない
65	.478	自分が相手の人にイヤな感じを与えているように思ってしまう
36	.464	気分が落ち着かない
113	.458	知っている人を見かけても顔を合わせないように道をきけてしまう
114	.454	顔をじーっと見られるのがつらい
111	.440	人がそばにいと仕事がやりにくい

100	.421	近所の人に合うと赤面し、体が固くなる
79	.417	友だちが自分を避けているような気がする
25	.414	人ごみの中で自分を意識する

第 11表 第Ⅵ因子，“気分のすぐれない” 因子

Item No.	因子 負荷量	項	目
20	-.694	いつも頭が重い	
14	-.641	先の事を考えすぎる	
19	-.641	頭が重く、いつもボーっとしている	
18	-.603	いつも疲れているような感じがする	
46	-.598	気分が沈んでしまって、やりきれなくなるときがある	
50	-.582	みじめな思いをすることが多い	
39	-.578	気分の動揺が激しい	
59	-.520	すぐ自分だけがとり残されるような気分になる	
37	-.517	不安がつよい	
51	-.516	いつも何かについてくよくよ心配する	
60	-.509	他人のことがよく思えて自分がみじめになる	
23	-.454	いつも憂うつである	
22	-.451	劣等感が強い	
38	-.444	ちょっとしたことをくよくよ気にする	
28	-.440	気持が安定していない	
86	-.437	調子の悪いときはなるべく人を避ける	
41	-.436	精神を集中するのに他の人より苦勞する	
36	-.434	気分が落ち着かない	
109	-.431	何か注意されたり、ちょっと叱られても気が転倒しみじめになる	
25	-.423	人ごみの中で自分を意識する	
30	-.413	いつも不機嫌でふさぎこむことがある	

第 12 表 第Ⅶ因子，“多勢の人に圧倒される” 因子

Item No.	因子 負荷量	項	目
82	-.740	多勢の人がいると自分が圧倒されてしまうような感じがする	
45	-.684	緊張すると身体がふるえて困る	
105	-.652	人がたくさんいるところでは気ははずかしくて話せない	
81	-.623	多勢の人の中で向い合って話すのが苦手である	
104	-.572	多勢の人の前にいくと足がふるえ胸がつまる	
106	-.487	会議などでの発言が困難である	
75	-.477	人前に出るとオドオドしてしまう	
37	-.433	不安がつよい	
87	-.431	人前でごちない自分をさらけ出すのがつらい	

73	-.418	話しかたが下手である
43	-.411	困ったことがあるとすぐ逃げ出そうとする

第 13 表 第Ⅷ因子, “変な人に思われそうな” 因子

Item No.	因子 負荷量	項 目
89	-.621	自分はまわりから変な人間だと思われているようだ
88	-.570	自分のおかしいことが人に知られて家の者に迷惑をかけるのではないかと気になる
90	-.455	相手にイヤな感じを与えるような気がして相手の顔色をうかがってしまう

「こたわってしまう」のである。つまり、ここでの対人意識は症状発症時の自己意識と非常に近いのである (第 10 表)。

#### 第 VI 因子

この因子に負荷量の高い項目からもわかるとおり、この因子は具体的側面と密接に関係する精神身体的な反応傾向である。それ故、この因子を“気分のすぐれない”因子と命名した。

この悩みは、自己の精神的不調感を身体的な不調感としてとらえることであり、またその逆ともいえる。この悩みは、I の研究ではとらえられなかったもので、強いていえば、b と関係するように思われる。この心気症的な悩みは、はたして対人恐怖症に特有なのかそれとも神経質症の者の特徴なのかは今のところ不明である。いずれにせよ、対人恐怖症者の持つ心気症的傾向と考えることができる (第 11 表)。

#### 第 VII 因子

この因子は、“多勢の人に圧倒される”悩みと命名した。この悩みは、小人数の対人場面とは異なったもので、多人数さ前にして経験される臨場不安と考えることができる (第 12 表)。

#### 第 VIII 因子

この因子に高い因子負荷量を示した項目は、わずか 3 項目であり、内容的にも症者特有の悩みであると思われる。これは、“変な人に思われそうな”と名づけてみた。この項目は I の研究の m と n に関係している。自分の病態を人にひたすらかくし、そういう自分がまわりの人に知れるのではないかという不安である。

以上、因子分析の結果、対人恐怖症者のもつ悩みは大きく 8 つに類別されることがわかった。この結果は I の研究で予想されたものとはかなり異なり、新しい研究の展望を可能にさせるものと思われる (第 13 表)。

### III ま と め

以上の研究の結果をまとめてみると、次のことが考えられる。

I. 対人恐怖に悩む者は対人場面における自己の行動を極めてネガティブに評価し、過

剰なほどに自己を問題視する傾向をもつといえる。彼等は対人場面での自己の否定的側面を一般大学生に比べて極めて詳細に意識化していると同時に、自己の性格や感情傾向とか希望や生きがいといったるまですべて否定的にとらえる傾向が著しいといえる。彼等は自己のあらゆる側面を問題視し、悩んでいるのである。この過剰なまでの自己を問題視する傾向（ここでは過剰なまでの病感といってもよいと思われる）が何故に症者に著しいのか、症者のもつ特有の否定的な自己意識を検討し、究明していかなければならないと考えられた。

Ⅱ. そこで彼等のもつ否定的な自己意識、つまり彼等のもつ悩みがどのような構造をもつのか、因子分析法によって数量的に検討してみたところ、彼等のもつ悩みが主として8つの因子から構成されていることが明らかとなった。このうち、第Ⅷ因子は興味のある悩みであるが、負荷量の高い項目が少なく、第Ⅰ因子から第Ⅶ因子までの7個の因子に意味があると考えられた。これらの因子について考察してみると、次の三つのカテゴリーに大別されるように思われた。

1つは、自分自身に関する悩みで、第Ⅱ因子の自己不適合感ともいえる“自分に満足できない”悩みと第Ⅵ因子の精神身体的な不適合感を訴えるメランコリックな“気分のすぐれない”悩みである。第Ⅱ因子は自己の精神機能が十分に機能していないことを訴えるもので、彼等がこの種の不満を強く抱くということは、自己に対する万能感的な期待をもっていることでもあり、非現実的な自己愛的態度の裏返し表現でもあると考えることができる。研究Ⅰの成果とも考え合わせてみると、彼等は確信的といえるほどに強い自己に対する不信感をもっているといえる。

第2のカテゴリーは、対人関係における悩みを表わすもので、対人恐怖症の機制を推測させる対人意識と思われるものである。因子Ⅲ、Ⅳ、Ⅴがこれに該当する。第Ⅳ因子は親密な関係になればなるほど、不安や緊張を体験するもので、“くつろいで人とつき合えない”悩みと命名したものである。これは完全に甘えられる親とか兄弟との間では体験されないものであろうし、また、全くの見ず知らずの人間との間でも体験されない悩みであろうと思われる。いはば、親しくなればなるほど当然リラックスして自然になれるはずの人間関係に出現してくる悩みで、親密度が増すにしたがって、本当の自分が暴露されそうで不安になる意識と思われる。恐らく、「甘えたくとも甘えられない」関係だからこそ、こうした「とらわれ」や「こだわり」が出現するのではなかろうか。このように考えると、第Ⅲ、第Ⅴ因子が理解できやすくなるように思われる。つまり、“相手が気になる”という第Ⅲ因子は自分の存在そのものが相手の人を不愉快にさせているのではないかという加害者的な意識であり、自分の本当の姿が暴露されて相手にイヤな感じを与えているのではないかという相手への「こだわり」と思われるのである。この相手に対する気づかいや配慮には、甘えるということによって暴露されそうな「自分」があるように思われる。本当の自分が相手にわかれば、相手は不愉快な思いをするのではないかと恐れるのである。Ⅴの“自分が気になる”悩みはⅢとⅣの関係が更に発展して、症状が出現する寸前の臨場恐怖に近いもので、おかしい自分が露呈しかかって、自分に「とらわれ」「こだわってしまう」状態を表しているように感じられる。

第3のカテゴリーに属する悩みは、第I因子と第VII因子である。これは共に集団不適合感を表わし、対集団場面で違和感や対立感、被圧迫感を感じてしまうものである。第I因子は第III因子と近いニュアンスをもつもので、対集団および対集団の雰囲気に対して「こだわり」、その中に入ってゆけない“集団にとけ込めない”悩みである。ここでは、症者は集団に対して自己を際立たせることなく、没个性的に「とけ込み」たいのである。第VII因子は、多人数よりなる集団を前にして被圧迫感を抱き、緊張し、混乱し、そういった自分に「とらわれ」てしまうものである。これは“集団に圧倒される”悩みであり、この悩みは第V因子と同様、集団場面における臨場恐怖であると思われる。

以上の分析は、森田のいう神経質ないしは高良のいう神経質症の人のうち、特に対人恐怖に悩んでいる人達のもつ悩みを数量的に分析した結果見いだされたものである。今後は、上記の因子を更にすっきりとした内容に明確化できるのかどうか検討を加え、対人恐怖症にいたる心理力動を数量的に究明する手がかりを作ってゆきたいと考えている。しかしながら、上記の因子の内容からも推測できるように、これらの悩みは、ことさらに対人恐怖症者にしかない悩みであるとは考えられないのである。われわれ日本人のもつ対人関係の不適合感のかなりのものが増幅されて表わされているように思われるのである。恐らく、適応した一般の人達では未分化でほとんど意識化されていないような対人場面での不適合感がここでは詳細に分化されて記述されているのではないかと思われるのである。

そこで、今後の課題として、一般の適応成人のデータと比較して、因子構造に関する比較研究をおこない、共通している側面と異なっている側面を明確にし、対人恐怖症のもつ意識性を更に究明すると同時に、適応成人のもつ対人関係における悩みの構造を明らかにしたい。次に、これらの比較研究をふまえて、これらの悩みの因子を測定する尺度を構成し、比較文化的な研究や対人不安意識について更に検討を加えていってみたい。

(付記 本研究の遂行に際し御協力いただいた 国立精神衛生研究所員高橋徹、東京正生学院 梅田英彦 両氏に感謝致します)。

#### 文 献

- 1) 新福尚武 (1970) 特集, 対人恐怖 序文, 精神医学, 12, 5, 4。
- 2) 土居健郎 (1960) 自分と甘えの精神病理, 精神神経誌, 62, 149。
- 3) " (1971) 甘えの構造, 弘文堂。
- 4) 加藤正明 (1964) 対人恐怖をめぐる, 精神医学, 6, 2, 107~112。
- 5) 高良武久 (1955) 対人恐怖と日本の歴史的社会的環境, 九州神経精神医学, 4, 125。
- 6) 近藤章久 (1964) 日本文化の配慮的性格と神経質, 精神医学, 6, 2, 97~106。
- 7) 近藤喬一 (1960) 対人恐怖症の社会文化的背景についての研究, 神経質, 1, 2, 157。
- 8) 三好郁男 (1970) 対人恐怖について——うぬぼれの精神病理——, 精神医学, 12, 5, 29~34。
- 9) 森田正馬 (1960) 神経質の本態と療法, 白揚社。
- 10) 森田・高良 (1963) 赤面恐怖症の治し方, 白揚社。
- 11) 西園昌久 (1970) 対人恐怖の精神分析, 精神医学, 12, 5, 15~21。
- 12) 大原・藍沢・岩井 (1970) 森田療法, 文光堂。
- 13) 小川捷之 (1971) 対人恐怖症の悩みに関する研究, 日本心理学会 第 35 回 大会発表論文集, 607~608。
- 14) 高橋 徹 (1966) 対人恐怖の精神病理——その微視社会学的分析——, 精神神経誌, 68, 31。
- 15) 浦上帰一 (1956) 対人恐怖と日本文化, 精神分析研究, III, 7, 8, 24~26。

付

表

2. ロベたである。
6. 赤ら顔がいやである。
7. 自分の目つきが気になる。
8. 自分の外観や着るものを気にしすぎる。
19. 遊び友達がいない。
20. 知らぬまに他人を傷つけてしまいそうで困る。
21. 人の上に立つことに自信がない。
23. 話し相手と話を合わせるのがおっくうになることがある。
24. 無理をして人に愛想よくしている。
25. 初対面の人に会うのがこわい。
26. (1)\* 自分の弱点や績点を知人に知られるのがこわい。
27. (2) 二人きりでいると、相手を意識してしまつて緊張してしまう。
28. 人が集つて、笑い合つたりしていると、自分のことが笑われているように思えてしまうことがある。
29. (3) まわりの人から見られていることを強く意識する。
31. 人前で自分の視線をどこへ向けたらよいのかわからなくなることがある。
33. 電車の中で人の視線を気にしてしまう。
34. 人と向いあつて食事をするとき、ギョチなくなることがある。
35. 道を歩いていると、人が自分を見ているような気がしてくる。
36. 大勢の人のまえで話をするとき緊張してしまう。
40. 遊ぶ時間がない。
43. (4) すぐ気持ちがくじける。
44. よく物忘れをする。
45. 深く考えないでしゃべつたりしてしまう。
46. (5) 感情的すぎる。
47. 不注意である。

49. 落ちつきがない。
50. 誘惑に弱い。
51. (6) 自分をごまかしている。
53. 安易なほうに進もうとする。
54. 物事にこだわりすぎる。
55. いこじになりやすい。
56. 自己主張ができない。
57. 決心がすぐ変わる。
58. 完全癖が強い。
60. 理論的でない。
61. (7) 意志が弱い。
62. 緻密なところがない。
63. (8) 決断力がない。
64. (9) 自意識過剰である。
65. あきっぽい。
66. (10) ものごとに熱中できない。
69. 物事を批判的に見すぎる。
70. なにをするにも自信がない。
71. 何事にも消極的である。
73. 後悔することが多い。
74. (12) 神経質である。
76. これからもダメな人間だと思う。
77. 一生の仕事を選ぶにあたって、何度も気持ちがかかった。
78. 将来のことを考えると不安になる。
79. (13) 将来の自分にはあまり大きな期待がもてない。
80. 自分らしい生き方ができないのではないかと不安になる。
81. 自分の生き方を貫けないような気がする。
82. 1人の人間として自立してゆけないのではないかと思う。
83. (14) 先の事を考えすぎる。
84. 希望がもてない。
86. 都会の生活が不安である。
87. いろいろなことにかまけてしまい、本当

\* カッコ内の数字は 117 項目 (研究Ⅱ) の項目番号である。

- に自分らしい生き方ができない。
88. 将来何を生きがいとして生きていってよいかわからない。
89. (15) 充実して生きている感じがしない。
90. (16) 生きていることに価値が見出せない。
96. (17) 異性の友達と話ができない。
98. 異性に近づきたいにもかかわらず避けてしまうところがある。
99. 知らぬまに好きな人を傾つけてしまう。
102. 異性と一緒にいると神経を使い頭がおかしくなることがある。
109. 胃腸の調子がすぐれない。
113. 時々動悸がする。
114. いつも身体の具合が悪い。
115. (18) いつも疲れているような感じがする。
116. (19) 頭が重くいつもボーッとしている。
117. (20) いつも頭が重い。
119. よく眠れない。
124. 家の中に不平不満が多い。
126. 家族のものは自分を信頼してくれない。
127. 家の中でゴタゴタが多い。
133. すぐに親に甘えてしまう。
134. 学校が嫌いで困った。
135. 試験が近くなると勉強をやる気がなくなる。
136. 自分の仕事について妨害や干渉をうける。
137. 今やっている仕事がおもしろくない。
141. このままやってゆく能力が自分にあるかどうか不安である。
148. イライラして落ち着かないことがある。
149. やる気がなくなるときがある。
150. (21) 気が弱い。
151. すぐカッとなりやすい。
152. 頭の働きがニブイときがある。
153. (22) 劣等感が強い。
154. 我ままで困る。
156. 自己中心的である。
157. (23) いつも憂うつである。
158. ちょりとしたことですぐまごつく。
159. 雑念があって1つのことに打ち込めない。
160. (24) 一つのことに集中できない。
161. 決断力がない。
162. 虚栄心が強い。
163. だまって考え込むほうである。
164. (25) 人ごみの中で自分を意識する。
165. 怠けものである。
166. 内向的である。
167. 無気力である。
168. (26) 小心である。
170. (27) 内気である。
171. (28) 気持ちが安定していない。
173. ものの見方、考え方が悲観的である。
174. だらしがない。
176. 感情がすぐ顔に出る。
179. (29) すぐまごついたりとまどったりする。
180. (30) いつも不気げんで、ふさぎこむことがある。
181. (31) 物事をてぎわよくやれない。
182. 理想をもっている自分から努力しようとしなない。
183. (32) 引っ込み思案である。
184. (33) 計画をたてても実行が伴わない。
185. 安易なものに流され易い。
186. 無口である。
187. (34) 仕事を楽しめない。
188. (35) 根気がなく何事も長つづきしない。
189. (36) 気分が落ちつかない。
190. いつも何か焦っている。
191. (37) 不安がつよい。
192. 感情の起伏が激しい。
193. すべての面で控え目である。
194. (38) ちょっとしたことをくよくよと気にする。
195. (39) 気分の動揺が激しい。
196. 記憶力が鈍くなったかんじがする。
197. 気分のむらが激しい。
198. 心で思っていることと行動が一致しない。
199. (40) 何をやるにも集中できない。
200. ささいなつまらないことに悩む。
201. (41) 精神を集中するのに他の人よりも苦



202. ひとつの仕事に打ち込むことがなかなかできない。  
 203. (42) 何もやる気が起らない。  
 204. (43) 困ったことがあると、すぐ逃げ出そうとする。  
 206. 仕事が手につかないことがある。  
 208. ちょっとした物音に対してもすぐドキッとする。  
 209. 失望するととてもこたえてなかなか忘れることができない。  
 210. (44) 何をやってもうまくゆかない感じがする。  
 211. 自分はうまく育てられていないと思う。  
 212. 素直になれなくて困る。  
 213. すぐ元気がなくなる。  
 214. 人とつきあっても話題がなくて困る。  
 215. 不安で何も手につかないことがある。  
 216. 表面的には落ち着いているが内心は不安である。  
 217. (45) 緊張すると体がふるえて困る。  
 218. (46) 気分が沈んでしまってやりきれなくなることがある。  
 219. (47) 気分がすぐに変る。  
 221. 仕事をしてもなが続きがしない。  
 222. なんとはなしに不安になることがある。  
 223. 人より遅れると何もしたくなくなる。  
 224. ボヤッとして何もできないことがある。  
 225. 頭がボーッとなって仕事の手につかないことがある。  
 226. 仕事をやりはじめるのがおっくうである。  
 227. (48) 自分もほかの人のように幸福だったらと思うことがある。  
 228. (49) むずかしい問題があまり重っているとやる前から気持ちがくじけてしまう。  
 232. 人によく失望する。  
 233. 人が成功したのを見ると自分がとりのこされたような気になる。  
 234. 1度しくじるとどうしても手がつかないままに仕事を放りっぱなしにしておくことがある。  
 236. 物事を悲観的に解釈するところがある。  
 237. いつも気をはりつめてくらしている。  
 238. 後悔することをよくやる。  
 239. 頭に浮かんでくるつまらない考えに悩んでしまうことがある。  
 240. 自分がとんでもないことをしでかすのではないかと不安である。  
 241. うっ積した気持のハケロがなくて困る。  
 244. 外出がおっくうである。  
 245. にぎやかな所にいるのがつらい。  
 246. 同じことをしていても楽しい時とつまらない時がある。  
 247. 最近の自分の行動に嫌気がさす。  
 248. 調子のよいときと悪いときがある。  
 249. (50) みじめな思いをすることが多い。  
 250. (51) いつも何かについてクヨクヨと心配する。  
 251. 何かを尋ねられるとすぐまごつく。  
 252. 一つのことを決めるのになかなか決心がつかない。  
 253. 自分でつまらないことだと思ってもすぐ気になる。  
 254. 何か不幸なことがおこりはしないかと心配である。  
 255. ほんとうは何でもないことを必要以上に心配することがある。  
 257. すぐ決心がつかないために損をしたことがよくある。  
 258. 何かやろうと思ってもこわくて手につかない。  
 259. (52) つまらないことをくよくよ考える。  
 266. 物事をすぐ感覚的に判断してしまう。  
 267. 空想以外に自分の気持ちが落ち着くところがない。  
 268. (53) 多くの人と友だちになることができない。  
 269. (54) 人との交際が苦手である。  
 270. 人との交際が恐ろしくなることがある。  
 271. コンパなどで、皆と同じように騒げない。

272. (55) 人との接触がうまくゆかない。  
273. 人から感情を害されやすい。  
274. 人が見ていると仕事がうまくできない。  
275. 仲間で嫌いな人がいる。  
276. すぐ口論したり、ケンカしたりする。  
278. 人から嫌われている。  
279. のけもの扱いにされている。  
280. (56) 他人を羨やんだり、ねたんだりする。  
281. 他人に対し興味がもてない。  
282. 他人に対し暖かい気持がもてない。  
283. 他人を気にしすぎる。  
284. 他人の視線が気になる。  
285. 私はひとからやり方が悪いと思われただけで自分のやりたいことも止めてしまうところがある。  
287. まわりの人に人気がない。  
289. 人のいいなりになり易い。  
291. ひとりぼっちで寂しい。  
293. 他人に対し、思いやりが持てない。  
295. (57) 集団の中に溶け込めない。  
296. (58) 人が多勢いると、うまく会話の中に入ってゆけない。  
297. 人を疑いがやすい。  
298. 他人に対しノーと言えない。  
299. 本当の自分と、外から見られている自分とがかけ離れている。  
300. 他の人達と一緒にの時でも、ひとりぼっちみたいな気持ちになることがある。  
301. (59) すぐ自分だけがとり残されるような気持ちになる。  
302. 人をジロジロと見たがるところがある。  
303. (60) 他人のことがよく思えて自分がみじめになる。  
304. すぐ人に頼ってしまう。  
305. 人と本当になじめない。  
306. 人を信じられない。  
307. まわりの人が押しつけがしくて困る。  
309. 人と心の底から親しく接したことがない。  
311. (61) 友だちと雑談していても、心からくつろげない。  
312. (62) 友だちと一緒にいるとき、顔がこわばったり赤くなって緊張することがある。  
313. 仲間で話をするとき、自分の思うことをザックパランに言えない。  
314. (63) 人と会うときに、自分の顔つきや目つきが、その人に悪い印象を与えるのではないかと不安になることがある。  
315. (64) 人と会うときに、自分がその人に応じた風に見られているか気になる。  
316. (65) 自分が相手の人にイヤな感じを与えているように思ってしまう。  
317. (66) 職場、学校のクラス、近所の人に、自分がどのように思われているのか気になる。  
318. 相手の目をみて話せない。  
319. (67) 人と目が合うとき、自分の目付きが気になる。  
320. (68) そばに人が来ると、おちつけない。  
321. 淋しいと思うことがよくある。  
322. 友だちと改まった話ならできるが、気軽な冗談が言えない。  
323. (69) 人と自然につき合えない。  
324. (70) 昔からよく知っている友だちとも、なかなか話しかけることができない。  
325. (71) 仲間のなかにとけこめない。  
326. 友だちとつき合っていて、うまくつき合えるときと、ぎこちなくなってしまうときとがある。  
327. 人の好き嫌いがはげしい。  
328. (72) 知らない人より知っている人と会うときの方が緊張する。  
329. グループ数人から十数人でのつき合いが苦手である。  
331. (73) 話しかたがへたである。  
333. 人からよく誤解される。  
334. 人の影響を受けやすい。  
335. (74) 自分が人にどう見られているのかクヨクヨ考えてしまう。  
336. 他人が自分のことをどのように考えているのかわからない。

337. 人が自分のことを言っているような気がするときがある。
338. (75) 人前に出るとオドオドしてしまう。
339. (76) 人と目を合わせられない。
340. 授業中先生に指されるとあがってしまう。
341. 皆からみつめられていると思うとドキドキしてしまう。
342. (77) 人と話していて、自分のせいで座が白けたように感ずることがある。
343. 自分がおかしいので他人が自分を非難しているように感ずるときがある。
344. まわりの人に認められたいと思うができない。
345. 他人と心からうちとけて話せない。
346. (78) 人の笑い声を聞くと自分のことを笑われているように思う。
347. まわりの人は自分のことを全くわかってくれない。
349. (79) 友だちが自分を避けているような気がする。
350. わざと表面的にすまないという大げさなふりをする自分が嫌いである。
351. (80) 自分が不愉快な感じを相手に与えているように思えて困ってしまう。
352. (81) 多勢の人の中で向い合って話すのが苦手である。
353. (82) 多勢の人がいると自分が圧倒されてしまうような感じがする。
354. 多勢の前で話をするとき体の調子がおかしくなる。
355. 多勢の前で話をするとき体が緊張でおかしくなる。
356. (83) 多勢の人とすれ違うときとても緊張する。
357. 他人が自分をどのように見ているか不安になることがある。
358. (84) 他人が自分をどのように思っているか不安になる。
359. (85) 向い合って仕事をしているとき、相手に顔をみられるのがつらい。
360. (86) 調子の悪いときはなるべく人进行ける。
361. 世間態にこだわる。
363. 人の前で自分のみにくい姿をさらすことに耐えられない。
364. 人と話をしているとき座が白らけるのがとてもつらい。
365. 人と話をしているとき相手に悪い印象を与えるのではないかと不安になる。
366. 話していて、座が白らけると自分がものすごく醜く感ずる。
267. 人と話をしているとき、不安になり顔がこわばって笑うこともできないことがある。
368. 無理をして、とりつくろって笑うことがよくある。
369. (87) 人の前でどこもない自分をさらけ出すのがつらい。
370. (88) 自分のおかしいことが人に知れて家の者に迷惑をかけるのではないかと気になる。
371. (89) 自分はまわりから変な人間だと思われるようだ。
372. (90) 相手にイヤな感じを与えるような気がして相手の顔色をうかがってしまう。
373. 人前で自分の名前を呼ばれるのがこわい。
374. 人に見られていると食事が思うようにできない。
375. 電車の中などで自分だけが特別な目で見られているのではないかとと思うとつらい。
376. 床屋などで自分の顔を見られると、どうにもならなくなる。
377. 人が集まっているところへ行きづらい。
378. (91) 自分のことが皆に知られているような感じがして思うように振舞えない。
379. (92) 自分のことが、他の人に知られるのではないかとよく気にする。
381. 相手の目を見て話ができない。
382. 多勢の前で話をするのがこわい。
383. 演説がきらいである。

384. 人前の朗読するのがつらい。
385. 人の中に出ると、適当な話題を思いつくのに苦勞する。
386. 話をしているとき、自分の何を話しているのかわからない時がある。
387. 誰にも自分のことをざっくばらんに話すことが出来ない。
388. 緊張している時、思いもしない返答をしてしまってあとで後悔する。
389. 人前で顔がこわばってしまって気おくれし自分の思うようなことが言えない。
390. 自分の思っていることを言えない。
391. 心を開いて人に接することができない。
392. 人と心を開いて話し合えない。
393. (93) 人と話す時、いい出しにくい。
394. (94) 話をしている時に顔がこわばっていやな表情になる。
396. (95) 他人に対して申訳けない気持ちが強い。
397. 近所の人との付き合いが悪い。
398. (96) グループでのつき合いが苦手
399. 人間関係がうまくゆかない。
400. 人が好き嫌いがひどい。
401. 順番にあてられたりすると、ドキドキする。
402. (97) 初対面の人がこわい。
403. 自分の目付がおかしいので、相手に非難されているように思うときがある。
404. 他人の視線を感じると顔がほてる。
405. (98) つき合いの長い友人と話をするときも緊張がとれない。
406. (99) 友達の家へ行っても、その家族の人とうちとけられない。
407. (100) 近所の人に会うと赤面し体が固くなる。
408. 聞きたいことがあっても話しかけることができない。
409. (101) グループの雰囲気になじめず、異和感を感じてしまう。
410. (102) 多人数の雰囲気になかなかとけこめない。
411. (103) 対人関係がぎこちない。
412. 道などを歩くとき、人に見られているような気がする。
413. 人前で緊張するほうである。
414. (104) 多勢の人の前にいくと足がふるえ、胸がつまる。
415. (105) 人がたくさんいる所では気はずかしくて話せない。
416. 人前にたつと声がふるえる。
417. 人前で話すことが困難である。
418. (106) 会議などでの発言が困難である。
420. 人の前、多勢の中にいる時、緊張してつばがでる。
421. (107) 知らない人達からジロジロ見られているように感じたことがよくある。
422. 始業式とか、卒業式等のような時など、異常に緊張して身体がふるえ、ものを言うのがつらくなる時がある。
423. (108) 人から批評されたり、小言を言われたりすると非常に感情を害される。
424. (109) 何かを注意されたり、ちょっとしかられても気が転倒しみじめになる。
425. 自己の弱点が他人に知られるのが恥かしい。
427. (110) 人と話をするとき、目をどこへもっていったいいかわからない。
428. 人の前に出ると、とても立っていられない。
429. 人のことが気にかかる。
430. 他人のことを気にしすぎる。
431. (111) 人がそばにいと仕事がやりにくい。
432. (112) 目上の人とのつきあいができない。
433. (113) 知っている人を見かけても、顔をあわせないように道をさけてしまう。
434. (114) 顔をジーンと見られるがつらい。
435. 自分がどう見られているのかと思って、すぐ人の顔を見てしまう。
436. (115) 人の目を見るのがとてもつらい。

437. 特定の人以外と話をするのが苦痛である。  
 438. 友達が少ない。  
 439. 自分を本当にわかってくれる親友がいない。  
 441. (116) 友達と話をしている時、何か自分の欠点を言われはしないかと不安なる。  
 444. 自分が人にどう思われているのかわから

ない。

445. (117) 人とどのようにつきあったらいいのかわからない。  
 446. 自分が他人にどのように映っているのかわからない。  
 447. 自分がくだらなく見えて相手に対してすまないと思うときがある。

項目番号	対人恐怖群 M (SD)	正 常 群 M (SD)			
2.	4.55 (1.70)	3.60 (1.48)	54.	4.74 (1.45)	3.71 (1.47)
6.	2.44 (2.38)	1.30 (1.55)	55.	4.24 (1.40)	3.10 (1.19)
7.	3.68 (1.80)	2.15 (1.73)	56.	4.06 (1.71)	2.91 (1.50)
8.	3.73 (1.81)	2.67 (1.38)	57.	4.08 (1.48)	2.71 (1.31)
19.	2.85 (1.82)	1.73 (1.61)	58.	4.20 (1.45)	3.09 (1.45)
20.	3.56 (1.73)	2.57 (1.46)	60.	3.76 (1.49)	2.44 (1.35)
21.	4.75 (1.53)	3.22 (1.46)	61. (7)	4.64 (1.40)	3.13 (1.55)
23.	4.12 (1.69)	3.34 (1.33)	62.	3.53 (1.64)	2.09 (1.19)
24.	3.72 (1.59)	2.58 (1.29)	63. (8)	4.40 (1.38)	3.14 (1.58)
25.	3.42 (1.72)	2.37 (1.41)	64. (9)	4.70 (1.52)	3.33 (1.32)
26. (1) *	4.72 (1.24)	2.89 (1.51)	65.	4.34 (1.51)	2.56 (1.40)
27. (2)	4.24 (1.58)	2.96 (1.42)	66. (10)	4.18 (1.49)	2.10 (1.33)
28.	3.66 (1.69)	2.28 (1.58)	69.	3.64 (1.36)	2.91 (1.26)
29. (3)	4.64 (1.22)	3.24 (1.51)	70. (11)	4.16 (1.44)	2.55 (1.26)
31.	4.42 (1.64)	3.68 (1.42)	71.	4.48 (1.58)	3.12 (1.43)
33.	4.16 (1.78)	2.96 (1.42)	74. (12)	4.94 (1.20)	3.52 (1.33)
34.	4.66 (1.49)	3.21 (1.42)	76.	3.00 (1.89)	2.12 (1.33)
35.	4.02 (1.78)	2.46 (1.24)	77.	3.57 (1.73)	2.76 (1.48)
36.	5.06 (1.25)	4.35 (1.11)	78.	4.56 (1.56)	3.29 (1.47)
40.	2.06 (1.55)	2.83 (1.55)	79. (13)	4.16 (1.62)	2.47 (1.35)
43. (4)	4.80 (1.12)	3.13 (1.41)	80.	3.98 (1.58)	2.97 (1.60)
44.	3.98 (1.51)	2.95 (1.51)	81.	3.90 (1.32)	2.84 (1.41)
45.	3.84 (1.76)	3.07 (1.36)	82.	3.96 (1.51)	2.22 (1.31)
46. (5)	4.26 (1.65)	2.80 (1.31)	83. (14)	4.62 (1.30)	2.81 (1.40)
47.	3.84 (1.51)	2.87 (1.45)	84.	3.60 (1.66)	1.97 (1.33)
49.	4.44 (1.64)	2.61 (1.42)	86.	3.26 (1.42)	2.03 (1.50)
50.	4.08 (1.53)	2.99 (1.61)	87.	4.08 (1.30)	2.70 (1.23)
51. (6)	4.28 (1.64)	3.26 (1.22)	89. (15)	4.66 (1.27)	3.12 (1.51)
53.	4.54 (1.37)	3.36 (1.45)	90. (16)	4.06 (1.65)	2.28 (1.31)
			96. (17)	3.08 (1.66)	2.33 (1.48)
			98.	4.08 (1.35)	3.31 (1.46)

\* カッコ内の数字は 117 項目 (研究Ⅱ) の項目番号である。

99.	3.40 (1.53)	2.46 (1.18)	173.	3.83 (1.37)	2.51 (1.32)
102.	2.63 (1.57)	1.93 (1.12)	174.	3.46 (1.41)	2.49 (1.37)
109.	3.84 (1.76)	2.65 (1.72)	176.	3.88 (1.69)	2.84 (1.46)
113.	3.71 (1.81)	2.14 (1.49)	179. (29)	4.34 (1.42)	3.22 (1.25)
114.	3.08 (1.95)	1.85 (1.26)	180. (30)	3.87 (1.52)	2.37 (1.23)
115. (18)	3.84 (1.74)	2.48 (1.32)	181. (31)	4.02 (1.25)	2.83 (1.32)
116. (19)	3.32 (1.85)	1.90 (1.27)	182.	3.76 (1.42)	2.48 (1.39)
117. (20)	3.22 (1.80)	1.72 (1.33)	183. (32)	4.80 (1.14)	3.37 (1.40)
119.	2.76 (2.03)	1.75 (1.51)	184. (33)	4.36 (1.35)	3.36 (1.38)
124.	3.00 (1.82)	2.20 (1.52)	185.	4.28 (1.12)	3.06 (1.42)
126.	2.48 (1.68)	1.77 (1.36)	186.	3.98 (1.75)	3.09 (1.59)
127.	2.78 (1.82)	1.71 (1.39)	187. (34)	3.60 (1.44)	2.30 (1.20)
133.	3.54 (1.75)	2.71 (1.48)	188. (35)	4.24 (1.43)	2.54 (1.23)
134.	3.61 (1.74)	1.72 (1.25)	189. (36)	4.46 (1.27)	2.62 (1.17)
135.	2.94 (2.01)	1.84 (1.38)	190.	4.04 (1.30)	2.64 (1.23)
136.	2.82 (1.65)	1.98 (1.42)	191. (37)	4.56 (1.51)	2.77 (1.24)
137.	3.27 (1.65)	2.44 (1.19)	192.	4.24 (1.63)	2.54 (1.24)
141.	4.06 (1.41)	2.99 (1.35)	193.	4.22 (1.38)	3.36 (1.31)
148.	4.56 (1.28)	3.03 (1.32)	194. (38)	4.84 (0.91)	3.41 (1.34)
149.	4.79 (1.07)	4.03 (1.18)	195. (39)	4.48 (1.32)	2.68 (1.26)
150. (21)	5.00 (1.14)	3.40 (1.39)	196.	3.88 (1.49)	3.19 (1.43)
151.	4.30 (1.43)	2.87 (1.42)	197.	4.24 (1.40)	2.62 (1.24)
152.	4.30 (1.17)	3.49 (1.20)	198.	4.55 (1.10)	3.30 (1.30)
153. (22)	4.72 (1.30)	2.95 (1.25)	199. (40)	4.38 (1.28)	2.42 (1.44)
154.	4.12 (1.64)	2.82 (1.31)	200.	4.80 (0.98)	3.44 (1.24)
156.	4.00 (1.71)	3.07 (1.30)	201. (41)	4.36 (1.42)	2.61 (1.31)
157. (23)	3.87 (1.48)	2.50 (1.22)	202.	3.98 (1.44)	2.47 (1.29)
158.	4.26 (1.39)	3.02 (1.27)	203. (42)	3.58 (1.37)	2.17 (1.27)
159.	4.28 (1.35)	2.96 (1.35)	204. (43)	3.96 (1.44)	2.70 (1.29)
160. (24)	4.40 (1.33)	2.61 (1.45)	206.	4.04 (1.41)	3.38 (1.26)
161.	4.42 (1.27)	3.33 (1.45)	208.	3.81 (1.45)	2.53 (1.32)
162.	4.06 (1.47)	3.18 (1.24)	209.	3.98 (1.51)	2.81 (1.29)
163.	4.45 (1.18)	3.87 (1.16)	210. (44)	3.70 (1.34)	2.64 (1.21)
164. (25)	4.26 (1.52)	2.90 (1.28)	211.	3.61 (1.76)	2.40 (1.44)
165.	3.83 (1.57)	3.13 (1.35)	212.	3.40 (1.73)	2.60 (1.38)
166.	4.84 (1.18)	3.66 (1.33)	213.	3.88 (1.45)	2.57 (1.30)
167.	4.10 (1.50)	2.38 (1.27)	214.	3.94 (1.74)	3.11 (1.51)
168. (26)	5.10 (0.25)	3.29 (1.40)	215.	3.60 (1.61)	2.72 (1.33)
170. (27)	4.80 (1.26)	3.53 (1.40)	216.	4.22 (1.40)	3.44 (1.18)
171. (28)	4.58 (1.17)	2.83 (1.20)	217. (45)	3.93 (1.68)	2.87 (1.43)

218. (46)	4.38 (1.45)	3.16 (1.34)	272. (55)	4.06 (1.69)	2.85 (1.35)
219. (47)	4.26 (1.45)	2.84 (1.33)	273.	3.96 (1.44)	2.61 (1.21)
221.	3.52 (1.48)	2.41 (1.30)	274.	4.40 (1.69)	3.26 (1.34)
222.	4.02 (1.50)	3.17 (1.42)	275.	3.69 (1.69)	2.62 (1.40)
223.	3.62 (1.48)	2.23 (1.25)	276.	2.51 (1.38)	1.73 (1.00)
224.	3.65 (1.56)	2.85 (1.39)	278.	3.16 (1.60)	2.12 (1.12)
225.	3.47 (1.42)	2.81 (1.33)	279.	3.02 (1.51)	1.93 (1.09)
226.	3.83 (1.38)	3.05 (1.26)	280. (56)	3.75 (1.23)	2.69 (1.30)
227. (48)	4.38 (1.66)	2.68 (1.49)	281.	3.00 (1.72)	2.09 (1.15)
228. (49)	4.00 (1.56)	2.63 (1.41)	282.	2.98 (1.58)	2.01 (1.06)
232.	3.66 (1.46)	2.84 (1.35)	283.	4.38 (1.58)	3.26 (1.20)
233.	4.36 (1.20)	3.40 (1.33)	284.	4.04 (1.87)	3.22 (1.32)
234.	3.82 (1.30)	2.68 (1.20)	286.	4.00 (1.21)	2.68 (1.27)
236.	4.16 (1.06)	2.97 (1.29)	287.	3.82 (1.65)	2.88 (1.07)
237.	3.94 (1.53)	2.46 (1.23)	289.	3.58 (1.45)	2.68 (1.37)
238.	4.06 (1.43)	3.41 (1.28)	291.	3.40 (1.70)	2.43 (1.31)
239.	4.32 (1.14)	3.09 (1.27)	293.	3.06 (1.63)	1.88 (1.10)
240.	3.14 (1.50)	2.43 (1.26)	295. (57)	4.48 (1.46)	3.00 (1.49)
241.	3.64 (1.45)	2.75 (1.38)	296. (58)	4.58 (1.48)	3.11 (1.48)
244.	3.70 (1.91)	2.44 (1.42)	297.	3.38 (1.55)	2.50 (1.22)
245.	3.22 (1.75)	2.32 (1.31)	298.	3.83 (1.37)	2.93 (1.31)
246.	4.30 (1.03)	3.73 (1.16)	299.	3.84 (1.33)	3.16 (1.33)
247.	4.30 (1.03)	2.75 (1.16)	300.	4.18 (1.48)	3.11 (1.45)
248.	4.58 (0.92)	4.09 (0.99)	301. (59)	4.14 (1.41)	2.85 (1.25)
249. (50)	4.30 (1.19)	3.17 (1.25)	302.	3.20 (1.53)	2.36 (1.29)
250. (51)	4.38 (1.25)	2.93 (1.23)	303. (60)	4.20 (1.27)	2.68 (1.30)
251.	3.92 (1.30)	2.82 (1.23)	304.	3.92 (1.44)	2.55 (1.18)
252.	4.18 (1.18)	3.48 (1.35)	305.	4.04 (1.61)	2.82 (1.34)
253.	4.42 (1.41)	3.32 (1.15)	306.	2.90 (1.50)	1.95 (1.12)
254.	3.51 (1.58)	2.48 (1.21)	307.	2.71 (1.42)	1.95 (1.07)
255.	4.38 (1.38)	3.19 (1.26)	309.	3.06 (1.99)	2.19 (1.41)
257.	3.98 (1.42)	3.31 (1.22)	311. (61)	4.08 (1.50)	2.30 (1.37)
258.	3.50 (1.47)	2.34 (1.07)	312. (62)	3.72 (1.82)	1.98 (1.26)
259. (52)	4.53 (1.13)	3.03 (1.22)	313.	4.18 (1.60)	2.58 (1.43)
266.	3.58 (1.24)	2.79 (1.20)	314. (63)	4.24 (1.89)	2.48 (1.46)
267.	2.96 (1.57)	1.99 (1.25)	315. (64)	4.70 (1.23)	3.37 (1.23)
268. (53)	4.08 (1.66)	2.90 (1.60)	316. (65)	4.49 (1.29)	2.88 (1.22)
269. (54)	4.38 (1.57)	3.13 (1.50)	317. (66)	4.32 (1.47)	3.15 (1.23)
270.	3.91 (1.74)	2.28 (1.34)	318.	3.50 (1.94)	2.28 (1.34)
271.	3.98 (1.51)	2.82 (1.63)	319. (67)	3.89 (1.78)	2.55 (1.35)

320. (68)	4.12 (1.49)	2.52 (1.30)	364.	3.94 (1.58)	3.09 (1.23)
321.	4.08 (1.68)	3.20 (1.47)	365.	4.24 (1.42)	2.98 (1.27)
322.	3.32 (1.65)	1.74 (1.23)	366.	3.73 (1.51)	2.48 (1.25)
323. (69)	3.95 (1.70)	2.45 (1.28)	367.	3.72 (1.90)	2.10 (1.26)
324. (70)	3.24 (1.90)	1.67 (1.19)	368.	3.88 (1.69)	2.99 (1.22)
325. (71)	3.93 (1.66)	2.32 (1.53)	369. (87)	4.46 (1.41)	3.26 (1.19)
326.	4.20 (1.57)	3.25 (1.41)	370. (88)	3.62 (1.68)	1.94 (1.22)
327.	3.86 (1.53)	3.06 (1.46)	371. (89)	3.90 (1.63)	2.35 (1.41)
328. (72)	3.65 (1.75)	1.61 (1.05)	372. (90)	4.32 (1.32)	2.73 (1.27)
329.	4.34 (1.66)	2.59 (1.44)	373.	3.60 (1.61)	2.06 (1.09)
331. (73)	4.40 (1.59)	3.63 (1.16)	374.	3.68 (1.95)	2.49 (1.35)
333.	3.46 (1.52)	2.73 (1.18)	375.	3.44 (1.87)	2.10 (1.24)
334.	4.10 (1.05)	3.31 (1.24)	376.	3.42 (1.86)	1.75 (1.17)
335. (74)	4.30 (1.35)	2.89 (1.18)	377.	4.02 (1.71)	2.43 (1.41)
336.	3.84 (1.36)	3.18 (1.15)	378. (91)	3.95 (1.67)	2.21 (1.24)
337.	4.06 (1.40)	2.93 (1.20)	379. (92)	4.10 (1.46)	2.13 (1.21)
338. (75)	4.34 (1.57)	3.00 (1.27)	381.	3.52 (1.86)	2.36 (1.38)
339. (76)	3.67 (1.77)	2.23 (1.26)	382.	4.28 (1.77)	3.25 (1.40)
340.	4.14 (1.61)	3.15 (1.38)	383.	4.58 (1.62)	3.87 (1.43)
341.	4.24 (1.66)	3.40 (1.21)	384.	4.06 (1.86)	3.11 (1.52)
342. (77)	3.86 (1.60)	2.79 (1.35)	385.	4.34 (1.51)	3.12 (1.38)
343.	3.86 (1.45)	2.48 (1.13)	386.	3.49 (1.75)	2.67 (1.37)
344.	3.91 (1.52)	2.51 (1.13)	387.	3.88 (1.64)	2.92 (1.38)
345.	3.79 (1.72)	2.75 (1.47)	388.	3.94 (1.70)	3.07 (1.34)
346. (78)	3.44 (1.50)	2.15 (1.33)	389.	3.96 (1.82)	2.99 (1.21)
347.	3.06 (1.34)	2.24 (1.09)	390.	4.24 (1.56)	2.96 (1.41)
349. (79)	3.20 (1.74)	2.10 (1.25)	391.	4.04 (1.62)	2.85 (1.45)
350.	2.70 (1.61)	1.90 (1.21)	392.	4.02 (1.68)	2.88 (1.49)
351. (80)	4.32 (1.43)	2.56 (1.24)	393. (93)	4.00 (1.55)	2.92 (1.33)
352. (81)	4.70 (1.47)	3.42 (1.38)	394. (94)	3.74 (1.82)	2.35 (1.10)
353. (82)	4.40 (1.61)	3.09 (1.33)	396. (95)	3.90 (1.28)	2.53 (1.10)
354.	2.94 (1.92)	1.98 (1.21)	397.	4.00 (1.71)	3.01 (1.45)
355.	3.50 (2.08)	2.53 (1.18)	398. (96)	4.42 (1.55)	2.64 (1.40)
356. (83)	3.58 (1.66)	2.14 (1.29)	399.	4.34 (1.57)	2.62 (1.26)
357.	4.26 (1.46)	3.01 (1.27)	400.	3.78 (1.81)	2.65 (1.43)
358. (84)	4.22 (1.41)	2.70 (1.23)	401.	4.54 (1.56)	3.52 (1.31)
359. (85)	4.12 (1.67)	2.48 (1.27)	402. (97)	3.58 (1.64)	2.51 (1.29)
360. (86)	4.30 (1.48)	2.74 (1.18)	403.	3.62 (1.61)	2.18 (1.16)
361.	4.00 (1.36)	2.65 (1.32)	404.	3.78 (1.90)	2.67 (1.38)
363.	3.96 (1.86)	3.16 (1.41)	405. (98)	3.24 (1.73)	1.32 (1.06)



406. (99)	3.90 (1.61)	2.20 (1.28)	427. (110)	3.85 (1.73)	2.75 (1.35)
407. (100)	2.80 (1.98)	1.64 (1.01)	428.	3.12 (1.72)	1.86 (1.06)
408.	3.94 (1.44)	2.54 (1.35)	429.	4.40 (1.22)	2.98 (1.16)
409. (101)	4.20 (1.56)	2.64 (1.35)	430.	4.40 (1.24)	2.86 (1.23)
410. (102)	4.50 (1.60)	2.80 (1.44)	431. (111)	4.53 (1.29)	2.99 (1.32)
411. (103)	4.46 (1.43)	2.90 (1.31)	432. (112)	3.86 (1.45)	2.51 (1.36)
412.	3.84 (1.70)	2.60 (1.25)	433. (113)	3.64 (1.61)	2.50 (1.13)
413.	4.48 (1.48)	3.64 (1.26)	434. (114)	4.14 (1.65)	2.96 (1.42)
414. (104)	3.98 (1.82)	2.90 (1.25)	435.	4.08 (1.61)	2.77 (1.22)
415. (105)	4.52 (1.55)	3.22 (1.42)	436. (115)	3.77 (1.82)	2.13 (1.17)
416.	4.16 (1.74)	3.21 (1.29)	437.	4.06 (1.32)	2.53 (1.30)
417.	4.42 (1.76)	3.16 (1.40)	438.	4.00 (1.82)	2.89 (1.49)
418. (106)	4.76 (1.57)	3.34 (1.42)	439.	3.81 (1.78)	2.67 (1.65)
420.	2.88 (1.99)	2.00 (1.17)	441. (116)	3.56 (1.60)	2.02 (1.17)
421. (107)	3.83 (1.66)	2.43 (1.21)	444.	3.62 (1.40)	2.94 (1.27)
422.	3.18 (1.87)	1.93 (1.16)	445. (117)	4.10 (1.55)	2.92 (1.35)
423. (108)	4.58 (1.41)	3.08 (1.34)	446.	3.78 (1.32)	3.01 (1.30)
424. (109)	4.24 (1.46)	2.72 (1.31)	447.	3.74 (1.68)	2.61 (1.42)
425.	4.28 (1.72)	2.95 (1.23)			